

日建第100901号
平成20年10月9日

国土交通省 道路局長 様

滋賀県蒲生郡日野町河原一丁目1番地

日野町長 藤澤



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記の件について、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

滋賀県 日野町

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

日野町内における生活基盤を結ぶ地域間道路の整備率はまだまだ低い状況にあり、近年の交通量の増加に伴い、町内の道路では通勤通学時間帯には交通渋滞の慢性化により、沿線の道路交通環境は悪化し、さらに、渋滞を避けた車両が生活道路に進入し、住民生活を脅かす状況となっています。

地方の道路整備（幅員狭小の道路整備・交通弱者のための歩道整備等）は、まだまだ整備がされていない現状であり、改善すべき点、要望や提案などについては、下記のとおりである。

1. 生活道路における交通渋滞の解消と安全対策（バイパスの整備・交差点改良）
2. 生活交通の利便性向上等、住民の安定的な定住化を促す上から、通勤、通学、通院などの日常の暮らしを支え、地域間の交通拠点を結ぶ生活幹線道路としての整備（隣接市町を結ぶ道路整備等）
3. 交通安全、防犯に考慮した通学路の歩道整備および弱者の通行に考慮した道路整備（バリアフリー対策等）
4. 高速道路料金の引き下げ、インターチェンジの増設など、現在ある高速道路をもっと有効に、利用出来ることが必要

今後の道路行政についての意見・提案

②—1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

滋賀県 日野町

○現状

日野町の中心的な道路として、南北方向には「国道307号」、東西方向に「国道477号」が通過し、この道路を中心に地域が発展しています。しかしながら、生活基盤を結ぶ地域間道路の整備率はまだまだ低い状況にあり、近年の交通量の増加に伴い、町内の道路では通勤通学時間帯には交通渋滞の慢性化により、沿線の道路交通環境は悪化し、さらに、渋滞を避けた車両が生活道路に進入し、住民生活を脅かす状況となっています。

○課題

当町の幹線道路は未整備区間が多く、通勤通学時間帯の交通渋滞箇所が多く、「安全・安心な道づくり」のため早急な道路整備が必要と考える。

今後の道路行政についての意見・提案

②－２地域の目指すべき将来像

様式 ③

滋賀県 日野町

日野町の中心的な道路として、南北方向には「国道３０７号」、東西方向に「国道４７７号」が通過し、この道路を中心に地域が発展し、地域間連絡道路、生活道路として重要な位置づけにある。しかし、当道路は未整備区間が多く、通勤通学時間帯の交通渋滞箇所が多く、「安全・安心な道づくり」のため早急な道路整備が必要と考える。

また当町では、名神名阪連絡道路の整備について、真に必要な道路整備として、重点化を進める上で特に優先度が高く取り組んでいるところである。この道路は、北陸自動車道や伊勢自動車道と一体となって日本海から太平洋に至る南北軸を形成し、東近江地域・甲賀地域と伊賀地域からなる地域集積圏の形成・魅力ある定住地域づくりを支援するとともに、東西方向の高速ネットワークとの連結による道路網の機能強化や広域的な交流を促進する上で重要な幹線軸となる。

平成２０年２月に新名神高速道路「甲賀・土山インター」の供用開始がされ、また、滋賀県道路整備アクションプログラムの見直し平成１９年度にされ、平成２０年度から平成２９年度までの１０年間の道路整備計画がまとめられ、当町から新名神高速道路「甲賀・土山インター」までのアクセスとして、主要地方道土山蒲生近江八幡線道路改築事業が整備計画に組入れられました。この道路は、名神名阪連絡道路の代替道路としての役割を果たし、活発な企業立地や遠方からの観光客の誘引、防災活動、救急医療や行政間連携などの広域連携の進展が期待されるなど、町の発展に欠かすことが出来ない重要な道路整備であることから、早急な道路整備が必要と考える。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

滋賀県 日野町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・安全安心な道づくり ・広域的な交流を促進する幹線軸の整備	・町の南北方向に「国道307号」、東西方向に「国道477号」の地域間連絡道路、生活道路として整備 ・新名神高速道路「甲賀・土山インター」までのアクセスとして、主要地方道土山蒲生近江八幡線道路改築事業の整備	・通勤通学時間帯の交通渋滞の緩和により、生活道路の安全化 ・活発な企業立地や遠方からの観光客の誘引、防災活動、救急医療や行政間連携などの広域連携の進展が期待される。	